

Git によるバージョン管理入門

田中 健策（株式会社 RAKUDO）

第四回

前回までのあらすじ

conflict が起こらないように、ブランチを分けて開発をすることにしました。しかし、それらを統合しないと完成しません。
そのためには

- 各ブランチで独立して開発ができて、
- 統合が楽で（人手を介さず、自動的にできる）
- 結果がわかりやすい

ような手法が必要です。

それを

- LaTeX のソース分割
- github のプルリクエスト
- github actions

によって構築してみましょう。

LaTeX のソース分割 1

複数人で LaTeX を書くときは、ファイル分割をする必要があります。一番簡単なファイル分割は、`\input` や `\include` を使うものです。しかしこれには、単独のファイルでコンパイルできないという欠点があります。

LaTeX のコンパイルはそれなりの時間がかかるので、これは避けたいです（コンパイルして結果を見るためだけに数秒かかるのは、執筆時に多大なストレスになります）。

LaTeX のソース分割 2

そこで、自分でマクロを各方法や、パッケージを使う方法など、様々な方法が開発されています。

- 効率的な LaTeX ファイル分割術

<https://qiita.com/wtsnjp/items/6ba3b8e12514d8a3bd41>

- 分割した LaTeX ファイルを subfiles を使ってコンパイルする

[https:](https://qiita.com/sankichi92/items/1e113fcf6cc045eb64f7)

[//qiita.com/sankichi92/items/1e113fcf6cc045eb64f7](https://qiita.com/sankichi92/items/1e113fcf6cc045eb64f7)

今回は、二つ目の subfiles パッケージを使います。TeX Live に含まれているが、もし各自の環境に含まれていなければインストールしておいてください。

main.tex と introduction フォルダの中の introduction.tex のファイルが main ブランチにあります。この2つが書き方の例になっていますので、見ておいてください（次のスライドと Wiki にも書き方を書いておきます）。

subfiles パッケージの使い方

まず、統合する方の \LaTeX ファイル（今回は main.tex）のプリアンプル

```
\usepackage{subfiles}
```

を書き、本文に

```
\subfile{introduction/introduction}
```

と書きます。皆さんは

```
\subfile{自分のフォルダ/自分のファイル}
```

と書くわけです。

そして自分の \LaTeX ファイルのプリアンプルは

```
\subfile{introduction/introduction}
```

だけにしておきます。

必要なプリアンプルは main.tex の方に書いておいてください。

gitignore についての注意

git リポジトリには普通、生成されるファイルは登録しません。登録しないファイルのパターンは「.gitignore」というファイルに書いておきます。今回から、pdf ファイルを.gitignoreに加えました。すでに生成された pdf ファイルをリポジトリに登録してしまった人は、「git rm」を使って消しておいてください。

図などのために pdf ファイルをリポジトリに登録する必要がある人は、その pdf ファイル（例えば tanaka/diagram.pdf）を.gitignore に

!tanaka/diagram.pdf

などのように無視しないように設定してください。

詳しくはウェブで.gitignore について調べればわかります。

プルリクエスト

良い仕組みを作っても、もしメンバーの一部がおかしなファイルをリポジトリに加えてしまえば、他の人までコンパイルできなくなって迷惑を被ります。

そうならないようにする仕組みが**プルリクエスト**です。

これは git ではなく Github の機能です。

「レビューをして、問題ないことを確認したらマージ」という作業をタスク化して、やりとりを記録できるようにしてくれるのです。

プルリクエストの流れ

- Github のリポジトリの上部のボタンでプルリクエストを作成
- 担当者がレビューして、修正が不要ならマージされます
- 修正が必要なら修正を依頼し、修正を push 後またレビュー
- そもそもプルリクエスト自体が不要ならクローズされます

このような流れが関係者にオープンになり、また記録されます。
またオープンなリポジトリなら、自由にプルリクエストが作成できるので、自由に開発に参加することができます（もちろん担当者がプルリクエストのレビューを捌けるわけではありませんが）

今回のプルリクエストの使い方

- 定期的に main ブランチを自分のブランチに merge しておいて、main の変更を取り入れてください。
- 自分のブランチの LaTeX 作成が終わったら、コンパイルできることを確認します。
- main.tex を編集して、自分の作った LaTeX ファイルが main.tex をコンパイルしたときに取り入れられるようにします。
- main ブランチへのプルリクエストを作成します。
- 講師の田中が確認して、main へ merge します。

github actions

github などの github ホスティングサイトでは、その性質上さまざまなイベントが起きます。

そのイベントを起点に、さまざまな処理を自動的に走らせるのが、github actions です（それ以外に webhooks も同様の使い方ができます）。

今回は github actions を使って、「main ブランチへの変更があったら、自動的にコンパイルして pdf をダウンロード可能にする」という仕組みを作ります。

これによって、現在のプロジェクトの進捗が可視化されます。プログラミングや文章の執筆など、形がなくて進捗が見えにくいプロジェクトにおいて、これは重要です。

その仕組み自体は講師の田中が作るが、興味がある方は.github フォルダ内に関連ファイルがあるので、設定方法を確認してみてください（docker などの知識が必要です）。

今回の課題

- 自分の L^AT_EX ファイル（なんらかの問題の解答。何の問題に解答したかを記入）を完成させる。
- 自分のファイルを subfiles に対応させ、main.tex を編集して、自分のファイルだけでも、main.tex に統合してでも、どちらでもコンパイルできるようにする。
- main ブランチへのプルリクエストを作成する。